

## 農中森力基金の概要

- 1 名称 : 「公益信託 農林中金森林再生基金」  
(通称: 農中森力 (もりぢから) 基金)
- 2 信託形式 : 特定公益信託
- 3 委託先 : 農中信託銀行株式会社

### 4 目的

国内の荒廃した民有林の再生により、森林の公益性を発揮させることを目指した活動に対して助成し、もって森林の多面的機能が持続的に発揮されることを目的とします。

### 5 助成対象事業内容

国内の荒廃した民有林の公益性を発揮させることを目指した活動であって、地域の森林に対する長期ビジョンをもった活動でかつ費用対効果に十分配慮した創造性が高いと認められる以下の事業に対する助成金の支給。

- ▶ 複数の森林所有者との長期安定的な契約に基づく、ひとまとまりとなった荒廃林の再生事業 (多面的機能の向上を目指した利用間伐・切捨て間伐、被害森林の整理伐・更新、天然更新のための択伐等の施業を条件とする)
- ▶ 上記に附帯する林地境界明確化、林地調査、不在村者調査
- ▶ その他目的を達成するために必要な事業

### 6 助成対象者

営利を目的としない法人で、過去の活動歴等からみて本活動を運営するに十分な能力、知見を有する団体 (ただし、地方公共団体は除く。)

### 7 選考方法

当公益信託の運営委員会が、当信託の趣旨、目的に照らし、事業内容や事業の効果等を総合的に勘案して選定します。具体的には、以下の条件に該当する事業の中から、特に、(1)、(2)に重点を置いたうえで、緊急性、継続性、波及性等が高い事業とします。また、当該事業が実施可能な相応の態勢を有する、もしくは態勢強化が見込まれる団体かを確認のうえ選定します。

- (1) 助成終了後も継続性・波及性が認められる事業
  - ・ノウハウ・技術・生産性の向上、コスト削減等の取組み
  - ・地況・林況・森林施業等が同種の地域における模範となる取組み
  - ・事業基盤充実（人材育成、機械化等）を目指した取組み
- (2) 過去に例の少ない先進的事業
- (3) 山づくりの長期的ビジョンが描かれ、それに基づいて申請事業の位置づけが明確な事業
- (4) 施業対象となる森林の整備が危急と認められる事業
- (5) 協同組合・地元住民・ボランティア・行政等と連携した活動

## 8 信託財産等

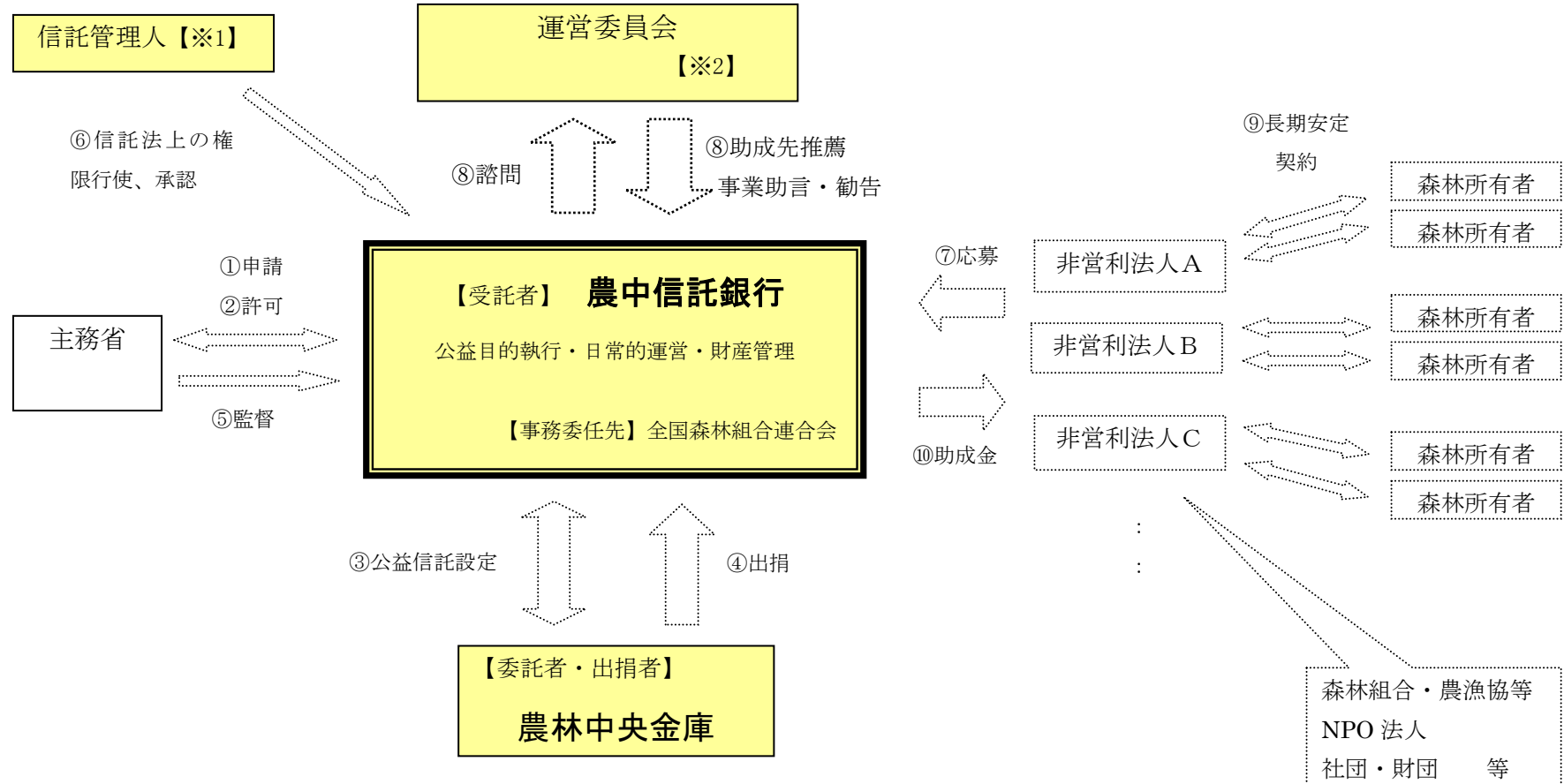
- 年間助成額 2 億円、助成期間 5 年（10 億円程度）
- 1 件あたりの助成金の限度額は 30 百万円とします。

## 9 スケジュール

- 平成 28 年 5 月 募集開始（第 3 回）
- 平成 28 年 6 月 募集終了（第 3 回）
- 平成 29 年 3 月 助成先決定（第 3 回）
- 平成 29 年 4 月 助成事業開始（第 3 回）
- 平成 30 年 3 月 助成事業終了（第 3 回）

以 上

# 農中森力基金のスキーム図



【※1】 不特定多数の受益者の代表として、受託者の職務執行を監督し、重要事項を承認する。

【※2】 公益目的遂行のため助成先の推薦や公益信託の事業遂行について助言・勧告を行う。学識経験者数名で構成。

## ○農中森力(もりぢから)基金(第3回)助成決定案件の概要等

助成対象先	事業の概要と評価のポイント
みなみさんりく 南三陸森林組合 (宮城県)  対象地面積 53ha	<b>事業名：南三陸の豊かな里山再生プロジェクト</b> 南三陸町では、震災以降、地域のエネルギー利用や、木造災害公営住宅建設の本格化等、多様な木材の安定供給が求められているが、共有林を個人分割化した小規模な林分が多く、路網整備の遅れ等から利用が進まない状況にある。 当事業では、荒廃している小規模林分で、生産基盤となる路網整備、高性能林業機械を活用した低コスト・高効率な作業システムを構築し、公益的機能の発揮を図るとともに、地域のニーズに対応したきめ細かい木材の供給を可能とする、集約化モデル林としての展開を目指すという取組みが評価された。
よねざわちほう 米沢地方森林組合 (山形県)  対象地面積 82ha	<b>事業名：広葉樹の多様な活用を通じた広葉樹生産林の再生</b> 当組合管内に広がる広葉樹林は、かつては地域の経済資源として有効利用されていたが、時代と共にその用途が失われ放置された結果、森林整備が進まず、森林病害虫の発生等により、一層の森林の荒廃が危惧されている。 当事業では、「ドローンを活用した広葉樹資源の把握→集約化した広葉樹施業による原木の安定確保→黒炭生産技術継承と生産量アップ→ニーズに合った販売戦略の構築→目標とする広葉樹林の姿・ビジョンづくり」を通して、広葉樹生産林の再生を目指すという取組みが評価された。
ながの 長野森林組合 (長野県)  対象地面積 41ha	<b>事業名：～やまんばん伝説の里～信州中条の森林再生事業</b> 長野市中条地区の森林は、奥地の急峻な地形と相まって施業の集約化が著しく遅れ森林経営計画団地の実績がなく、森林の荒廃が進んでいる。地域の過疎化・高齢化が進み、境界の明確化も急務となっている。 当事業では、長野県が公開している微地形図（CS立体図）を活用して、境界明確化、作業道開設、搬出間伐等行くと同時に、道路沿いでは、クレーン等による特殊な搬出間伐を行う。急峻な地形に応じた搬出システムの試験・調査を行い、地域の森林整備と木材資源の積極的な利用を図る取組みが評価された。
ひがししらかわむら 東白川村森林組合 (岐阜県)  対象地面積 46ha	<b>事業名：100年先を見据えた森林づくり ～第2ステップ木材生産林再生モデル事業～</b> 当組合は、この10年間で高密路網での利用間伐が定着し、多くの人工林での施業が進んだが、急傾斜地・岩石地・溪流沿いに位置する森林の多くは、路網開設ができず、森林の荒廃が進み、その再生が急務となっている。 当事業では、木材生産林として継続することが困難な人工林を環境林にゾーニングし、植生転換等、後世に繋げる森林整備事業を行うとともに、架線集材・搬出システムを導入し、路網開設の困難な箇所でも木材を有効活用することにより森林再生を目指す取組みが評価された。

助成対象先	事業の概要と評価のポイント
<p>ちゅうせい 中勢森林組合 (三重県)</p> <p>対象地面積 73ha</p>	<p><b>事業名：後世へ引き継ぐ 雲林院城跡里山再生事業</b></p> <p>事業対象地は森林所有者の高齢化、木材価格の低迷等による森林整備意欲の減退等により、森林境界が不明な森林が急増した結果、間伐等の森林整備はされないまま放置され、竹等も侵入し藪化が加速し深刻な状態となっている。</p> <p>当事業では、森林境界を明確化した上で、所有者ごとの山の健全度診断を実施し、総合的な視点から課題・整備方針を抽出、状況に応じた施業を実施するとともに、搬出された材の売り先の確保までの工程を包括管理し、健全な里山林づくりに向けた基礎を確立するという取組みが評価された。</p>
<p>にいみし 新見市森林組合 (岡山県)</p> <p>対象地面積 29ha</p>	<p><b>事業名：新たな低コスト林業と自伐林家との協力による荒廃林再生事業</b></p> <p>新見市は、古くから良質なスギ、ヒノキの産地であるが、近年の柱角等需要減少等から林業離れが進む一方、森林資源が成熟する中、バイオマス発電やCLT等地域の新たな需要への、安定的な木材供給体制の構築が急務となっている。</p> <p>当事業では、荒廃林の経営モデル施業団地を編成し、高性能林業機械を活用した新たな作業システムによる施業効率化、多様な用途への販売を通じて森林整備を推進し、自伐林家と協力して森林の公益性機能の再生を図り、地域林業の継続を目指すという取組みが評価された。</p>
<p>カルスト森林組合 (山口県)</p> <p>対象地面積 30ha</p>	<p><b>事業名：国定公園「秋吉台」区域内の関係者の協働による森林再生モデル事業</b></p> <p>当地域の人工林は材価の低迷等により放置され、その再生に取り組んできたが、各種法規制があり、路網中心の森林整備等既存の技術だけでは対応が難しく、架線集材の導入が必要な状況となっている。</p> <p>当事業では、秋吉台国定公園における貴重な自然環境の保全と森林資源の有効活用の両立を図るべく、スィングヤーダとタワーヤーダを使った架線集材による作業システムを構築し、未整備であった国定公園内の森林再生の第一歩に結びつけたいという取組みが評価された。</p>
<p>みま 美馬森林組合 (徳島県)</p> <p>対象地面積 20ha</p>	<p><b>事業名：限界集落周辺の森林における「新次元の森林管理経営システム」構築モデル事業</b></p> <p>事業対象地は、吉野川支流貞光川の最上流部の急峻な山間に位置する限界集落の周辺地域である。周辺森林の管理水準は低下し、林業経営の放棄も憂慮される状況となっている。</p> <p>当事業では、森林管理と森林施業を一括受託し、搬出間伐等の収益で後年の森林管理等を行う「森林管理施業長期受託事業」を中核事業とした「新次元森林管理経営システム」を推進し、急峻地形に対応したタワーヤーダ等による「架線系高能率林産システム」の確立を目指す取組みが評価された。</p>
<p>ふくおかけんこういき 福岡県広域森林組合 (福岡県)</p> <p>対象地面積 73ha</p>	<p><b>事業名：自然と人の共存をめざす里山へ ～ムナカタの小さな挑戦～</b></p> <p>事業対象地の宗像市大穂地区は市内を流れる唯一の川の上流に位置する里山である。しかし、近年の宅地化、農林家の減少等により、荒廃した森林が増加しているが、搬出できるような作業道もなく、竹林も竹藪と化している。</p> <p>当事業では、今後に繋がる道づくり・高性能林業機械を導入した低コスト施業・森林資源の有効利用等「元気な里山づくり」を目的とする取組みを行い、里山を再生させるための新たな生産・流通・販売システムの構築を目指すという取組みが評価された。</p>